

概要版

令和5年度第2回野洲市 MIZBE ステーションかわまちづくり協議会 会議録

開催日時 令和6年1月26日(金)
午前10時00分～11時30分
場所 市役所本館3階 第1委員会室
出席者 委員7名中7名
傍聴者 16名

1. 開会

事務局(野洲市都市建設部 次長)から協議会成立の報告

市長挨拶
委員紹介

2. 議事

- (1) 第1回協議会概要について
資料1、資料2に基づき説明

主な質問・意見

委員からの質問等、特になし

- (2) 野洲市 MIZBE ステーションかわまちづくり計画(素案)について
資料3に基づき説明

主な質問・意見

B委員 2点質問がある。7ページの説明の中で土木技術研修場の話が何回か出てきたが、ハード整備の中に記載がないようである。グラベルコースのところを活用するイメージなのか。

グラベルコースをマウンテンバイク等で遊ぶという活用方法は、野洲川が洪水時に堤防が決壊した際に堤防を復旧するための備蓄土砂であるため、舗装した場所では難しいということで提案をいただいたものであると認識している。私もすごく良いと思っているが、一方で、グラベルバイクをやったことある方は多くはないと思う。具現化していくために、これまでどのような方々と意見交換等をされてきたのか、あるいは、今後のどのような方々により、どの

ように計画を進めていくのか考えがあれば教えていただきたい。

事務局 現時点ですが、資料の6ページに記載しているとおおり、サイクルパークに広いスペースあるので、土木技術研修場として活用できないかと考えている。ここは基本的には土で整備される想定をしているので、先ほどの方針の中に記載されていたドローンや地形の計測測量が可能なスペースの確保ができるのではないかと考えている。また、県立高等専門学校の設置もされるため、どのように学生に活用していただくかという部分も意見交換しながら進めていきたいと考えている。

2点目のサイクルパークイメージは、備蓄土砂として採取されるということ前提に、土砂の起伏を利用したBMXコースや、子どもたちが土の上を自転車で走ることのできる場所をイメージしているが、どこまでニーズがあるのかということも考えながら滋賀県の自転車競技連盟や業界関係の方、それと近隣の同じような自転車の構想している方にお話をお聞きし、今後、ニーズを把握しながらどこまで整備するのか詰めていきたいと考えている。

議長 ご意見として頂戴する。

C委員 隣接する県有地に県立高等専門学校を整備させていただくが、土木技術研修場を設けていただくことは大変心強く、高等専門学校としても期待をしたいと思う。その上で、高等専門学校や民間企業をイメージした記載だと思うが、4ページの(4)人材育成の支援促進の項目で、「地域が抱える課題解決のための高度技術の共同開発」というのは、具体的な想定がない中、書き過ぎではないか。

また、清掃活動とあるが、この地域、このMIZBEステーションだけのことなのか、市全体での一斉清掃の際にここを拠点として活用するというところまで想定しているのか、教えていただきたい。

事務局 高度技術の共同開発という言葉をあえて入れさせていただいた。隣接地に高等専門学校ができ、JR野洲駅からこの防災拠点の間には大きな企業もあるため、それらと連携しながら、産官学で何らかの地域の課題を解決できないかというような趣旨も含めて入れさせていただいた。

地域の課題としては、例えば、除草等の施設管理にコストもかかり、他にも難しい問題等もあるので、施設整備後の維持管理をいかに効率化を図るのかという観点も必要である。課題が明確になった際に、色々連携しながら進めていければということで共同開発という言葉を使わせていただいた。

清掃活動は、地域で活動されているNPOもおられるので、当然、そのような方とも連携しながらの活動も進めていけないかということで記載をさせてい

ただいた。

C委員 共同開発という言葉自体に違和感がある。あくまでも育成の支援を促進するために土木技術研修場を考えておられると思う。高等専門学校や地域企業、国の職員も活用するイメージであるが、「共同開発」となると何か少し活動の幅が狭まり、人材育成の支援でなくなるようなイメージを持つ。もう少し丁寧に言葉を足すなどした方が誤解を招かないのではないか。

事務局 趣旨は承知した。記載内容を検討する。

E委員 水辺の中で触れ合うという事業があるが、野洲川河川内のどこをどこまで整備するのかということが書かれていない。どのような予定なのかお伺いしたい。

事務局 整備の場所は6ページの方でお示ししている。大きな枠組みではオレンジ色のエリアで、野洲川の河川の中はというと堤防からの川の中となる。

E委員 少し懸念がある。野洲川に階段で降りるということは、家族連れや色々な方が河川内で水辺に触れ合うことになる。そうすると、どこまでも中に入っていく可能性がある。落差工から川田地区間の河川を深さのないようにしていただきたい。また、落差工はかなり深く、多くの生き物が生息している。落差工のそばまで人が近づかないようにするといった考えはあるのか。現在、落差工にも釣り人は入れないような状況になっているのでお伺いしたい。

B委員 落差工の部分については、過去に事故等があったことから河川管理者として立ち入り禁止区域として設定し、また、監視もさせていただいている。委員がおっしゃったように連続的な空間であるので、川に近づいて落差工のある上流側に行った人が危険な所に入らないような工夫は必要と考える。一方、河川の深みは自然な営みでできるもので、浅くするという一時的な対策をしてもいずれは河川の自然な掃流力で戻ってしまうため、この事業の中でそのような対策の実施は現時点では予定はしていない。

河川管理者の思いとしては、危ないから川に近づけないというような施策ではなく、本当に危険な所は入らないようにはしていただきたいが、それ以外の所はむしろ川と親しんでいただきたいという思いで、この MIZBE ステーションであったりかわまちづくりという施策をやっているので、あまり制約をかけることは現在は考えていない。

E委員 私は野洲川の近くに住んでおり、小学生中学生の頃はこの場所で遊んでい

た印象があるが、事故等があった子どもたちは河川内で遊ばないよう学校で指導され、家族も河川に行かなくなった。その後、護岸工事もあり、だんだん河川に降りられないような状況となり、降りられる場所は国道8号の下ぐらいで、結局、「野洲川は危険な場所だ」と子どもたちに教えていったというのが実情である。子どもが一切遊ばない状況になっていったので、今回、この場所で水辺に触れ合えるということは本当にありがたいと思っている。

G委員

野洲駅の北口から県立高等専門学校までの道路は、市三宅地先のどの辺りを通っていくのか。5年も経てば少なくなると思うが、現在、子どもは竹ヶ丘地区が一番多い。北野小学校裏の道路は交通量がものすごく多く、どこが県立高等専門学校までの通学路になるのかを心配している。

県立高等専門学校の前の道路は、時間制限で一方通行になっているが、信号が少ないため、北野小学校周辺が渋滞していると西友の裏までずっとスピードを上げて車が走る。また、農道を通学通勤で使われているため市三宅地区から苦情を聞いている。今後、高等専門学校ができるので利便性も考えて、事故のないようにしていただきたいと思う。

一方で、竹生交差点の信号機が分かりづらいと言われている。初めて来られた方はどの信号を見ていいかわからないという話を以前に聞いたのでもう少し信号のことも考えていただきたいと思う。

事務局

まず、1点目の通学路ですが、現在、開校時期に合わせて整備の方を進めており、通学路の計画案を地元の方に説明をさせていただいている状況である。資料6ページの図面で言うと、トラック（グラウンド）がある部分の上ぐらいが学校の通用門になると想定しており、そこに繋がるように事業所の脇に沿って、農地に向かって真っ直ぐ抜ける通学路を提案している。土地所有者がいるので合意がないと計画が進められないため、通学路の必要性も含めまして丁寧に説明し、合意が得られればこの事業を進めていきたいと考えている。

信号機の要望は聞いており関係機関には話を伝えている。信号機の設置はあらゆるところで要望があり、地域全体での優先順位も関係するので、それらを含めた形で関係機関と話をさせていただいている。

F委員

7ページのスポーツパークの中身について、この場所は風の通り道だと考えられる。風雨にさらされた場所はテニスコートとして利用できないと思われるので、テニスコートを作るのであれば屋根付きにする。そうすると天候にあまり左右されなく夜間も使え、非常に幅の広い利用価値が生まれる。災害時にも避難場所として十分活用できると思う。体育館の板みみたいなものではなく、コンクリートの上にウレタンの分厚い舗装をすれば、十分利用価値が生まれ、避難場所として大いに活用でき、平常時にはいろんな使い道ができると思

う。

また、土砂採取場について、広場の方に大きな土を盛り、緩い勾配で野外ステージを設ける。観客は芝生で自由にミニライブなどを楽しめるなど賑わいの創出に繋がる。広場にそういうものがあれば土砂もかなりのボリュームを確保できると思う。

この広場の中、駐車場の舗装と書かれているだけだが、最近ではEVインフラが爆発的に進められている。昨年度から始まった政府の補助金で行われており、全国大体5000基弱ほど整備された。来年度は今年度以上の予算をつけて整備をされると聞いている。政府は2025年に新車の販売100%をEV車にするということを目指しておられる。一方、イギリスでは5年後にはガソリン車の販売を中止、また、アメリカではもう50%、ガソリン車を制限すると示されている。これからMIZBEステーションの駐車場を整備するのであれば、このようなEVインフラを考えた駐車場の計画をする必要があると思う。

EV充電は自宅でやる普通の充電もあれば、移動充電もありますし、ここが防災拠点であるなら、消防車や救急車も一部はEV車になるため、急速充電の設備は絶対必要である。当初の設備は、政府の助成金を使えるのであれば使うなど、仕組みを今から考えてEV充電のインフラをご検討いただきたい。

事務局

MIZBEステーションは一義的には防災施設ということで、災害時の復旧や水防団の情報発信基地、休憩場所というところになる。あとは平常時でいかに地域の方に活用いただくのかということになるので、先ほどのEVも含めた建物の設置というところではご意見としていただく。ただ、維持管理や採算性も含めたい。例えば、実現可能かという検討になると思う。現時点で設置するかどうかのお答えはなかなか難しいことをご理解いただきたい。

F委員

EV充電には建物を必要とせず、小さなスタンドを設置するだけである。当初から配線をしておき、いつでもスタンドが建てられることが重要である。また、屋根付きというのは単なる建築物じゃなくて構造物として検討をされてはどうかと思う。平常時と災害時の両方で活用できるようなものを研究していただいて検討いただく必要があると思う。

費用面だが、EVの費用面は特段かからないと考えている。送配電が行われる電気を供給するだけ設備が必要となる。災害時、送配電線がダウンしたときに、発電機が必要となる。一般的に200kVAクラスの発電機ならどこにでもあり、災害時に接続し、回路ごとに分けるということで十分利用できる。当初は大きな負担にならないと思う。そのような設備を防災センターとしてフル活用した、災害に強いセンターを造るというような考え方が必要と思っているので検討いただきたい。

D委員 前回、代理出席となったが、県立高等専門学校に来てくれる子どもたちのフィールドとして活用してほしいという意見を申し上げた。私どもは土木技術者であるので、MIZBE ステーションが県立高等専門学校と一体となって活用できるということに非常に期待している。人材が非常に不足しており、人材育成が第一というところで期待している。先ほど委員がおっしゃられた EV の話を少し出させていただくと、私は都市計画や公園に携わっており、今、彦根で既に供用している国スポの主会場においても、EV 充電器をそれなりの数をしっかりと設けていくべきだろうということで検討していた。その際、経産省の補助金も非常にたくさん出るような仕組みになっていたのが、公がやるというより、その EV ステーションを違う主体に設置してもらって運営してもらおうということも可能と思う。

この6ページでいきますと、先ほど委員がおっしゃられた高等専門学校との連携は非常に特色あるものなので、いかに場所を有効に使うかという点で、高水敷より上の平地のところを高専の学生が勉強に使うというのも一つである。もう一つは川の中、水の流れを使った学習みたいなものもあるかと思う。

今後、河川管理者との協議が必要であるが、平常時における学習面と、一般利用のサイクルパークの延長として、川の中、水も含めたところを利用できるようにしていただきたいと強く感じた。その辺りは打ち合わせをしていただいて記載していただきたい。自転車も BMX と言うのであれば、川の中に入って遊んでまた上がってくるということもできればいいし、そういう広い視野を持って使っていただければと考えている。

議長 ご意見として頂戴する。

B委員 大変貴重なご意見をいただいた。まさに河川管理者として、基本スタンスとしては、なるべく水辺や川に近づいていただきたいということで、この川の中のエリアまで含めたまちづくりという形にしていきたいと思う。今後、川に近づいていただけるような仕掛けを、ハード的にどうするのかは、来年度、我々の方でも設計業務を発注し、ご意見をいただきながら検討を進めていきたいと思う。サイクルパークのすぐ下の箇所は整備エリアに設定していないところもあり、まっすぐ堤防を下りて高水敷に坂路をつけることが現実的に可能か検討しないとわからないが、ご意見も踏まえて考えさせていただきたい。ご指摘の部分は守山市との市境でもあり、守山市に食い込むといった話も出てくるかもしれないため、その際には守山市とも相談をしながら進めていきたいと思う。

C委員 県立高等専門学校について、土木技術研修場だけでなく野洲川という大きな川が近くにあるので、具体の利用には許可を得なければならないかもしれ

ないが、来年度以降本格的にカリキュラムを編成する中で、防災学習といった視点も入れて検討したいと思う。また、今後もこの場でもご意見をいただきたい。

(3) 協議会のスケジュール及び当面の予定について

資料4に基づき説明

主な質問・意見

委員からの質問等、特になし

3. その他

B委員 活発に様々なご意見が出てすごくよかったと思う。1点、先ほど発言をし忘れたが、テニスコートに屋根を設置するのは簡単ではなく、費用もそれなりにかかると思う。一方で、1月1日の能登半島地震を目の当たりにし、防災拠点が重要だという認識も持っている。今、国土交通省の方から TEC-FORCE という職員が技術的な支援をする部隊を1週間交代で継続的に能登半島に派遣しており、我々の事務所の職員も先週8日間、現地に行き、現地の防災施設を拠点に色々な活動をしている。災害は起こってほしくはないが、もしこの地域で大規模な災害があった際に、支援を受けるための拠点施設として活用するという視点も念頭に置いて計画に反映させていきたいと思う。

議長 TEC-FORCE は多くの人を派遣いただいており、被災地も本当に喜んでおられるシステムだと思う。今回も琵琶湖河川事務所から職員さんが行かれており、大変だったと思うが現地の方は喜んでおられると思う。本当にありがたく思う。ご意見は十分に事務局として前向きに検討させていただきたいと思う。他にございますでしょうか。

D委員 今、委員から話あったように、支援等を進めている中で、私もこの地域の防災危機管理監をさせていただいており、各市からも人を派遣していただいて被災地の応援をしている。この場所も被災された方のための避難所としては当然であるが、支援に来られる人が寝泊まりできるベースとしなければならないと思う。今回の地震で、我々が第1陣から行っている場所はワンボックスの車で寝泊まりして応援を行った。徐々に変わってきているが、先ほどおっしゃったような、屋根付きのテニスコートを造っておけば、そこに囲いを入れて使える。都市公園でも四阿(あずまや)はシートが貼れるタイプを入れるなど、防災公園として整備している。整備にお金がかかるというのはあるが、そこは補助金や民間活力などを活用し、色々な可能性のあるステーションにしてい

ただければと考えている。

議長 ご意見として頂戴する。その節には国、県には補助金等のご支援をお願いしたい。他にございますか。

F委員 県の職員さんをバスで被災地まで送迎させてもらっている。当然、うちの乗務員も寝る場所がなく廊下で寝ている。職員さんは6泊7日で過酷な条件の中で、活動いただいていることを考えると、やはり、災害時に広域的に支援を受けられる拠点は絶対必要だと痛切に感じている。私の住む地域では、正月3時間半停電し寒くて仕方がなかった。トイレも流れない。非常時の発電は絶対必要だと痛切に感じたので、市長よろしく願います。

議長 市からも職員が交代で行っているが、今回行く職員は柔剣道場かどこかで寝泊りすると聞いている。そのような過酷な状況で、また雪も多く大変な状況というのを聞いているので、いただいたご意見を十分に踏まえて進めていきたいと思う。

5. 閉 会

野洲市都市建設部長挨拶

以上